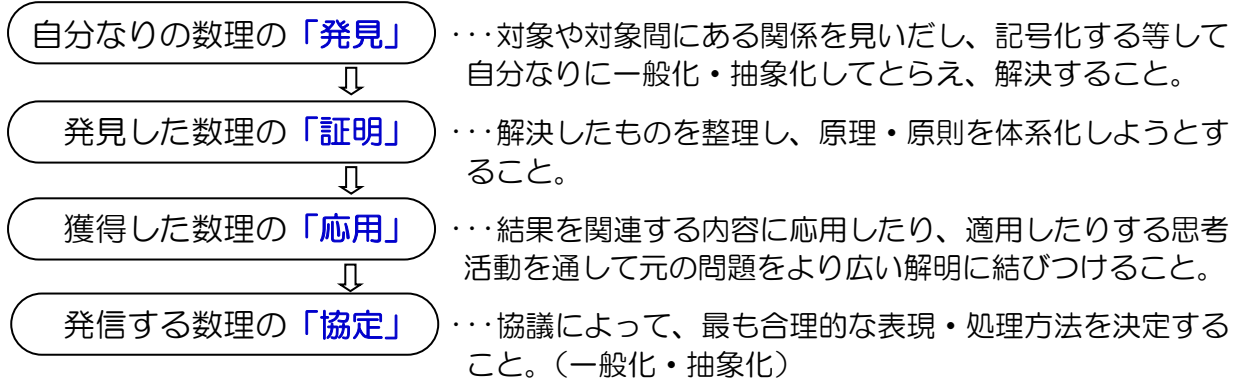


演繹的思考と帰納的思考に支援するT・T

1 歴史的な数理創造の営みの過程

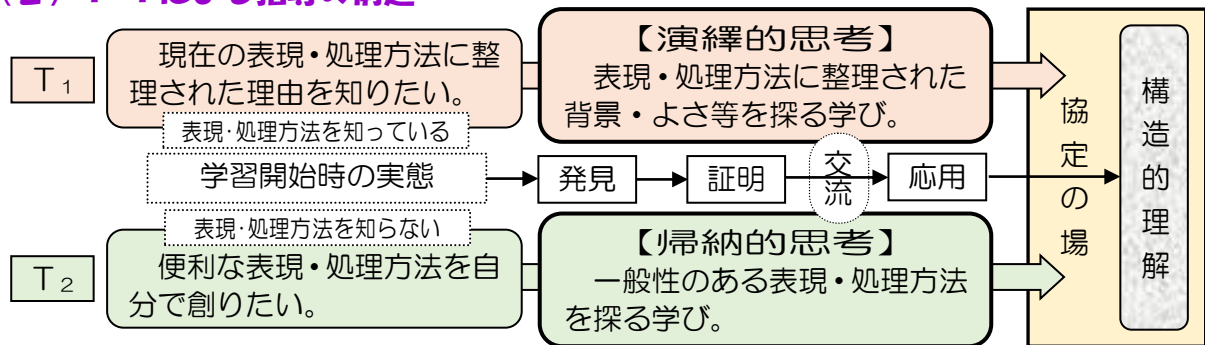


2 T・T (チームティーチング) の役割

(1) 学習以前に見られる児童の実態 (以下の2種) に対応する

- ① 既に本時の学習内容 (表現・処理方法) を知っている児童に対して
→ 「なぜそのような表現・処理方法としてまとめられたのか?」「そのよさは?」
★演繹的思考を鍛える学びの成立
- ② 本時の学習内容 (表現・処理方法) を知らない児童に対して
→ 「どう表現・処理をすれば一般性のある便利なものとなるのか?」
★帰納的思考を鍛える学びの成立

(2) T・Tによる指導の構造



3 T・T (2グループ間) の交流

(1) 異なる視点からの情報提供として

- T₁グループ…現在の表現・処理方法に整理された理由発見の喜びをT₂グループに伝えたい。また、知らなかったグループがどうまとめたのかを知りたい。等
- T₂グループ…自分たちで創ることができた表現・処理方法をT₁グループに伝えたい。また、それが正しいかどうかをT₁グループに確認したい。等

(2) 数理を一般化する協定の場として

異なる視点 (多様な視点) で追求してきた背景から、両グループで、より簡潔・明瞭・的確で、より一般性のあるものに高めていくための協定の場 (協議して決定) として位置づける。